



平成27年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

平成26年11月11日

上場取引所 名

上場会社名 コムシード株式会社

コード番号 3739 URL <http://www.commseed.net/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 羽成 正己

問合せ先責任者 (役職名) 執行役員 経営管理部長 (氏名) 小倉 誠

TEL 03-5289-3114

四半期報告書提出予定日 平成26年11月13日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成27年3月期第2四半期の業績(平成26年4月1日～平成26年9月30日)

(1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
27年3月期第2四半期	584	65.2	33	—	27	—	24	—
26年3月期第2四半期	353	3.1	△76	—	△79	—	△80	—

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
27年3月期第2四半期	5.23	5.02
26年3月期第2四半期	△19.60	—

(注)1. 当社は平成25年10月1日付で普通株式1株につき100株の割合で株式分割を行っております。1株当たり四半期純利益につきましては、当該分割が前事業年度の期首に行われたと仮定し算定しております。
2. 26年3月期第2四半期の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、1株当たり四半期純損失であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
27年3月期第2四半期	626	307	49.0
26年3月期	416	181	43.7

(参考)自己資本 27年3月期第2四半期 307百万円 26年3月期 181百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
26年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
27年3月期	—	0.00	—	—	—
27年3月期(予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成27年3月期の業績予想(平成26年4月1日～平成27年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	1,200	34.1	60	—	55	—	50	—	10.79

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

1株当たり当期純利益の予想値は、平成27年3月期第2四半期における期中平均株式数を用いて算出しております。

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	27年3月期2Q	4,790,400 株	26年3月期	4,513,400 株
② 期末自己株式数	27年3月期2Q	16,600 株	26年3月期	16,600 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	27年3月期2Q	4,633,811 株	26年3月期2Q	4,129,700 株

(注)当社は平成25年10月1日付で普通株式1株につき100株の割合で株式分割を行っており、当該分割が前事業年度の期首に行われたと仮定して、期末発行済株式数、期末自己株式数および期中平均株式数を算定しております。

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表に対するレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 継続企業の前提に関する重要事象等	4
3. 四半期財務諸表	5
(1) 四半期貸借対照表	5
(2) 四半期損益計算書	6
第2四半期累計期間	6
(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書	7
(4) 四半期財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期累計期間における当社を取り巻く事業環境は、スマートフォンの普及に伴う国民のライフスタイルの変化に伴い、スマートフォン端末でのインターネット利用が引き続き急拡大を続けており、関連する市場においては競争の激化とともに、さらなる成長が期待されております。

このような事業環境の中、当社はスマートフォン向けのサービスを中心に事業を展開しております。

当第2四半期累計期間の業績につきましては、既存事業のソーシャルゲーム『グリパチ』が順調に推移したことや、スマートフォン向けゲームアプリにおける人気コンテンツのタイムリーな配信により、売上高は当初の計画を上回りました。また、利益面につきましても、売上原価において社内開発の稼働率を向上したことで外注費圧縮によるコスト削減が図れたことや、売上増加による利益がスマートフォンネイティブアプリの開発費、資金調達にともなう営業外費用の発生、税金費用の増加をカバーし、当初の計画値を上回りました。

以上の結果、売上高は584,489千円(前年同期比65.2%増)、営業利益33,183千円(前年同期は営業損失76,211千円)、経常利益27,481千円(前年同期は経常損失79,815千円)、四半期純利益24,226千円(前年同期は四半期純損失80,960千円)となりました。

なお、当社はモバイル事業の単一セグメントであるため、セグメントごとの記載はしていませんが、事業におけるサービス分野別の主な取り組みは、以下のとおりであります。

①ソーシャルゲームについては、既存のサービスの強化を行い、ユーザー満足度の向上と新規ユーザーの獲得を推進いたしました。バーチャルホール『グリパチ』においては、8月に会員数が180万人を突破したほか、記念キャンペーンの実施や新規のアプリを投入し、連動するイベントを行うなど、各種施策が功を奏し、売り上げも順調に推移しております。また、『不思議の森のパン工房』においても、各種イベントの投入を定期的に行い、サービスの充実を図っております。

②スマートフォンゲームアプリについては、当第2四半期累計期間における新規配信アプリのほとんどが、ゲーム部門の有料アプリで1位となるなど、売上高も過去最高を記録しております。

③自社メディアおよびメーカーオフィシャルサイトについては、『パーラーオリンピア』リニューアルをはじめとした既存サイトの会員体系の見直しやアプリの投入など、効率化・最適化を行っております。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第2四半期会計期間末における資産は、前事業年度末から210,490千円増加し、626,767千円(前事業年度末比50.6%増)となりました。

これは、主に流動資産で現金及び預金149,494千円、受取手形及び売掛金39,767千円、その他15,660千円が増加したことによるものです。

なお、現金及び預金の増加は、主に転換社債型新株予約権付社債100,000千円の発行及び新株予約権による株式の発行101,215千円によるものです。

(負債)

当第2四半期会計期間末における負債は、前事業年度末から84,807千円増加し、319,145千円(前事業年度末比36.2%増)となりました。

これは、主に流動負債で買掛金27,722千円の減少と固定負債で転換社債型新株予約権付社債100,000千円の増加によるものです。

(純資産)

当第2四半期会計期間末における純資産は、前事業年度末から125,682千円増加し、307,621千円(前事業年度末比69.1%増)となりました。

これは、主に第2回新株予約権が全て行使され資本金50,607千円、資本剰余金50,607千円が増加したことと、四半期純利益の計上に伴う利益剰余金24,226千円の増加によるものです。

(キャッシュ・フローの状況)

当第2四半期会計期間末における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は、前年同四半期と比べ195,565千円増加し、276,508千円(前年同四半期比241.6%増)となりました。

各キャッシュ・フローの状況と主な要因は、次のとおりであります。

①営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動の結果使用した資金は27,344千円(前年同四半期比63.4%減)となりました。

これは、主に資金の増加要因として税引前四半期純利益27,481千円、減価償却費9,374千円、その他の増加15,356千円があったものの、資金の減少要因として売上債権の増加39,767千円、仕入債務の減少27,722千円、前払費用の増加10,828千円があったことによるものです。

②投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動の結果使用した資金は10,800千円(前年同四半期比5,451.9%増)となりました。

これは、無形固定資産の取得による支出10,800千円があったことによるものです。

③財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動の結果獲得した資金は187,639千円(前年同四半期比157.8%増)となりました。

これは、新株予約権付社債の発行による収入94,517千円、新株予約権による株式の発行による収入99,720千円、新株予約権の発行による収入1,735千円と、長期借入金の返済による支出8,334千円によるものです。

(3)業績予想などの将来予測情報に関する説明

業績予想につきましては、平成26年5月12日に公表いたしました通期の業績予想に変更はありません。

2. 継続企業の前提に関する重要事象等

当社は、平成26年3月期まで3期連続して営業損失、当期純損失を計上し、営業活動によるキャッシュ・フローがマイナスとなっております。当第2四半期累計期間において営業利益、四半期純利益を計上したものの、営業活動によるキャッシュ・フローがマイナスとなっている状況から、継続企業の前提に関する重要な疑義を生じさせるような状況が存在しております。

当社が事業を展開するモバイル事業においては、スマートフォン市場の成長と従来のフィーチャーフォン市場の段階的な縮小が進行しており、環境が大きく変化しております。このような環境のもと、当社は、ユーザーの市場移行による影響により携帯公式サイトへの課金対象会員数も減少傾向にあることから、これに歯止めをかけるべく事業を推進しつつ、スマートフォン向けアプリの企画開発に注力しております。しかしながら、この市場の変化により引き続き当社の業績と成長も大きく影響を受けることから、早急に対策を講じる必要があります。

当社は、当該事象又は状況を解消するために、下記の改善施策を進めております。

①収益面については、フィーチャーフォンからスマートフォンへのトレンドが大きくシフトしている現在、当社は、『グリパチ』等既存のソーシャルゲームのユーザーへの最適化とさらなる拡充を図り、安定した収益基盤を確立してまいります。また、かねてより開発を進めている新規サービスの早期立ち上げによる、スマートフォン向けコンテンツビジネス分野の強化により、さらなる収益の拡大を図る所存であります。

②コスト管理については、売上原価において社内開発の稼働率の向上により外注費を圧縮し、販売費及び一般管理費においても人件費の削減や広告宣伝費の見直しを進めることで、コストの削減を図ってまいります。

③財務面については、スマートフォン向けアプリの開発費は一定数の利用者を獲得するまでは先行投資的な支出が続くこと、また、運営費として企画運営の人件費や優良なコンテンツ確保のための契約金および最低保証額（ミニマムギャランティー）等も先行して支出されることにより、売上金回収までの期間において手元流動性の低下が見込まれます。

このため当社は、平成26年5月12日開催の取締役会において、第三者割当により発行される第2回無担保転換社債型新株予約権付社債及び第2回新株予約権の募集を行うことを決議し、本資金調達により資金を確保いたしました。

これらの改善施策に取り組むことにより、継続企業の前提に関する重要な不確実性は、認められないものと判断しておりますので、四半期財務諸表の注記には記載しておりません。

3. 四半期財務諸表

(1) 四半期貸借対照表

(単位:千円)

	前事業年度 (平成26年3月31日)	当第2四半期会計期間 (平成26年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	127,013	276,508
受取手形及び売掛金	176,690	216,457
商品及び製品	7,053	6,368
原材料及び貯蔵品	3,630	3,247
その他	36,062	51,723
貸倒引当金	△7	△15
流動資産合計	350,441	554,289
固定資産		
有形固定資産	20,064	17,592
無形固定資産	21,619	25,951
投資その他の資産		
破産更生債権等	30,717	30,150
その他	24,152	28,934
貸倒引当金	△30,717	△30,150
投資その他の資産合計	24,152	28,934
固定資産合計	65,836	72,477
資産合計	416,277	626,767
負債の部		
流動負債		
買掛金	115,678	87,955
1年内返済予定の長期借入金	16,668	16,668
未払法人税等	4,110	4,700
その他	32,523	52,930
流動負債合計	168,980	162,254
固定負債		
転換社債型新株予約権付社債	—	100,000
長期借入金	33,332	24,998
退職給付引当金	10,269	10,269
役員退職慰労引当金	19,329	19,197
その他	2,427	2,427
固定負債合計	65,357	156,891
負債合計	234,338	319,145
純資産の部		
株主資本		
資本金	631,367	681,975
資本剰余金	62,476	113,084
利益剰余金	△494,549	△470,323
自己株式	△17,355	△17,355
株主資本合計	181,939	307,381
新株予約権	—	240
純資産合計	181,939	307,621
負債純資産合計	416,277	626,767

（2）四半期損益計算書
（第2四半期累計期間）

（単位：千円）

	前第2四半期累計期間 （自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日）	当第2四半期累計期間 （自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日）
売上高	353,813	584,489
売上原価	258,057	376,252
売上総利益	95,755	208,236
販売費及び一般管理費	171,967	175,052
営業利益又は営業損失（△）	△76,211	33,183
営業外収益		
受取利息	9	18
貸倒引当金戻入額	1,134	567
その他	159	0
営業外収益合計	1,303	585
営業外費用		
支払利息	380	414
支払手数料	2,542	391
株式交付費	1,984	—
社債発行費	—	5,482
営業外費用合計	4,907	6,287
経常利益又は経常損失（△）	△79,815	27,481
税引前四半期純利益又は税引前四半期純損失（△）	△79,815	27,481
法人税、住民税及び事業税	1,145	3,254
法人税等合計	1,145	3,254
四半期純利益又は四半期純損失（△）	△80,960	24,226

(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書

(単位:千円)

	前第2四半期累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前四半期純利益又は税引前四半期純損失 (△)	△79,815	27,481
減価償却費	9,658	9,374
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△1,139	△559
退職給付引当金の増減額(△は減少)	△537	—
役員退職慰労引当金の増減額(△は減少)	—	△132
受取利息及び受取配当金	△9	△18
支払利息	380	414
株式交付費	1,984	—
社債発行費	—	5,482
売上債権の増減額(△は増加)	△24,281	△39,767
たな卸資産の増減額(△は増加)	1,253	1,067
仕入債務の増減額(△は減少)	17,506	△27,722
前払費用の増減額(△は増加)	△10,874	△10,828
長期前払費用の増減額(△は増加)	1,440	△5,250
破産更生債権等の増減額(△は増加)	—	567
その他	7,951	15,356
小計	△76,482	△24,535
利息及び配当金の受取額	9	18
利息の支払額	△319	△404
法人税等の支払額	△948	△2,426
法人税等の還付額	3,060	3
営業活動によるキャッシュ・フロー	△74,680	△27,344
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△244	—
無形固定資産の取得による支出	—	△10,800
投資有価証券の売却による収入	50	—
投資活動によるキャッシュ・フロー	△194	△10,800
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の返済による支出	△50,000	—
長期借入金の返済による支出	—	△8,334
株式の発行による収入	124,960	—
株式の発行による支出	△1,984	—
新株予約権の行使による株式の発行による収入	—	99,720
新株予約権付社債の発行による収入	—	94,517
新株予約権の発行による収入	—	1,735
リース債務の返済による支出	△179	—
財務活動によるキャッシュ・フロー	72,796	187,639
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△2,078	149,494
現金及び現金同等物の期首残高	83,021	127,013
現金及び現金同等物の四半期末残高	80,943	276,508

(4) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は、第2回新株予約権の行使に伴い、前事業年度末から当第2四半期会計期間末までに合計101,215千円の資金調達を行いました。

この結果、当第2四半期累計期間において資本金が50,607千円、資本準備金が50,607千円増加し、当第2四半期会計期間末において資本金が681,975千円、資本準備金が113,084千円となっております。